

ビジネスを探究するケースメソッド



【研究メンバー】

1年1組 29名

1年2組 30名

1年3組 29名

計 88名

【ご協力いただいた方々】

名古屋商科大学 商学部 関口 了祐 教授

1. はじめに

本校は「ビジネスを探究する学校」をキャッチコピーとし、3年間のビジネス探究プログラムを実施している。1年生では「ビジネス基礎」の教科書をもとに、学習内容に関連した出来事（ケース）に登場する主人公になったつもりで考え、クラスで議論する「ケースメソッド」を開始した。

2. 研究課題

私たちが取り組む「ケースメソッド」は今年度が初年度ということもあり、この学習を通して私たちがどのような力が身についたとを感じるのかを課題としたい。

3. 研究経過

以下のケースについて実施した

学期	実施したケース
1学期	1-1-1「商業の学びって？」 1-1-2「個人の問題？会社の問題？」 1-3-1「SDGsとSociety5.0の関係って？」 2-1-3「あなたならどうする?!」 2-2-1「感動を与えるコミュニケーション」 2-3-1「未来へつなぐ情報を活用したビジネス」
2学期	2-3-6「情報化社会の課題～企業の秘密を守るには?～」 3-1-2「クリスマスマジック」 3-2-1「目指せ全国販売!!その問題はどう解決する!？」 3-2-5「商品によって特徴が違う!？」 3-3-2「物流の歴史から理想の物流を考えよう」 3-3-9「新しいスーパーマーケットをつくろう」
3学期	3-3-11「自販機大国日本～冷凍食品が逆境の業界を救う!？」 4-1-1「株主と代表取締役社長の関係ってなんだろう？」 4-3-2「新規事業の立ち上げ」

※ 11月7日（木） ケースメソッド特別講義 120分

「3社の財務諸表を見てからビジネスを探究しよう」

名古屋商科大学 関口 了祐 教授

4. 研究内容

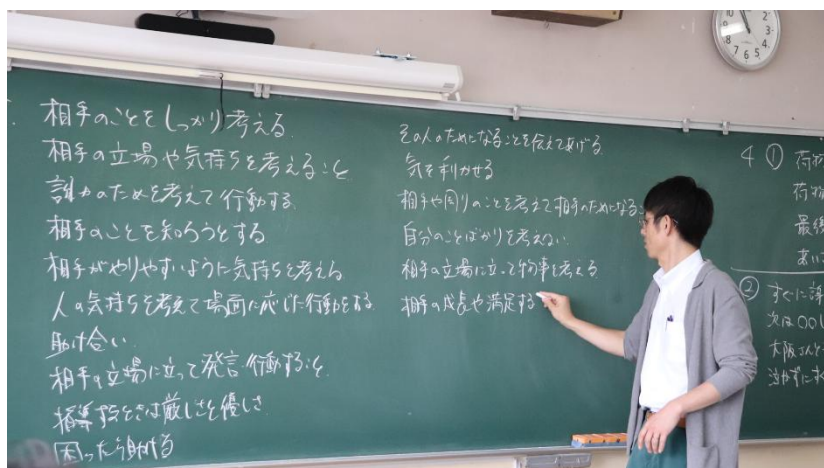
ケースメソッドは、議論する1週間前くらいにケースに関するアサインメント（事前課題）に取り組み、当日の授業に話したいことを用意するとした。ケースメソッドの当日は4人程度のグループにて自分の考えを発言して、その後、クラス全体で発言した（写真1）。クラス全体での発言では、多くの人が挙手するなど、積極的にケースメソッドに参加することができた。先生は、出された意見をすべて黒板に書くことで理解も深まるほか、他の人の発言も大変参考になることがわかった（写真3）。



（写真1）先生からの問いかけ



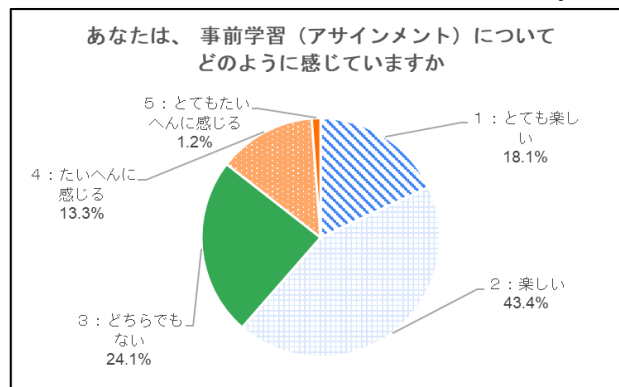
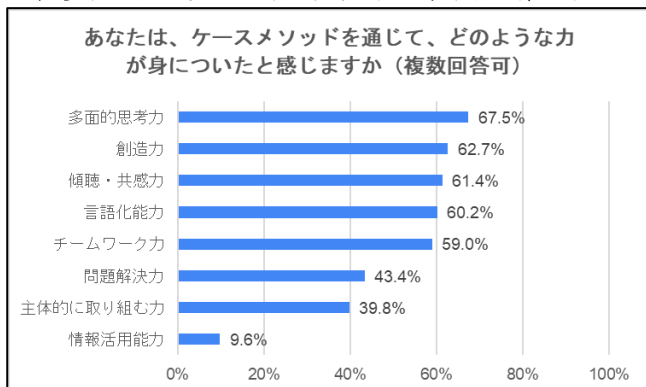
（写真2）挙手して発言に備える



（写真3）私たちの意見で黒板が文字で埋まる様子

5. 考察

この授業に関してアンケートを採ったところ、下図のようなことがわかった。ケースメソッドを通して、多面的思考力や課題発見能力、問題解決能力などが身についたと感じていることがわかった。



6. 今後の課題

ケースメソッドを通して、ビジネスにおける様々なことを深く知ることができた。しかし、地域や企業の方からお話を聞いたり、考えたり、発表するなどの機会がなかった。2年生では、こうしたことも含め、本校の「ビジネス探究プログラム」を学んでいきたい。